

2023 年度事業計画

全体活動事業

設立から28年目を迎えた当会の2022年度事業は、残念ながら新型コロナウイルスの影響で思うような成果は上げられなかったが、2023年度は一日も早くコロナが終息することを願い、他団体との連携と協働の強化、とりわけ域内における「スポーツクラブ21ゆずり葉」、「域内各学校」、「逆瀬台小学校PTA」、「民生委員・児童委員」などと多様化した協働の場を拓ける。11自治会・3管理組合を中核とした議決機関である役員会と、執行機関である事務局、活動支援局による2局体制を効果的に機能させ、当地域が一体となり、「まちづくり計画」による当地域の課題解決を図りながら、地域コミュニティの創造を推進していく。活動についてはマスク着用、手の消毒、検温を行い、会議室キャパの半分の人数で行なう。

- (1) 2023年4月16(日)に、総会に代わる「2023年度定時役員会」を書面表決で行う。
役員会は、原則毎月開催の5役会による役員会資料の検討と配付、偶数月の第1日曜日午前10時から役員会の開催を基本とする。(参考資料P 11の「役員会」の年間日程表を参照)。
なお、今年度は役員会議を原則リモート化する方向で検討する。(5役会議は既に実施中)
- (2) 「宝塚市まちづくり協議会代表者交流会」は、会長の石谷が出席する。
- (3) 「宝塚市立逆瀬台小学校及び県立宝塚高等学校」に、学校運営協議会が組織されたため、地域として各学校を支援し、協働して運営を行なう。
- (4) 「地域ごとのまちづくり計画」は、当地域をより良い地域にするために体制を整え、継続的なフォロー体制を強化し、課題解決に努める。(参考資料P 11～12の「地域ごとのまちづくり計画」を参照)。今年度は、「防災」、「防犯」、「見守り」、「まち、公園、川の美化」を重点的に話し合う。

事務局活動事業

(1) 広報委員

地域自治を担うためには、情報伝達・共有活動が非常に大切である。情報の受・発信に努力し、住民にオープンな情報の伝達を図る。

- ① 広報紙「ゆずり葉だより」の発行：年4回、B4版4面、カラー印刷で行う。

参考資料P11の配付年間日程表により各団体に広報紙を配付する。

- ② ポータルサイトの更新：<https://takarazuka-community.jp/list/yuzuriha10/>

ホームページの更新：<http://yzrh.exblog.jp/>

HP掲示板の更新：<http://8507.teacup.com/yuzuriha/bbs>

ブログの更新：<http://www.hnpo.comsapo.net/yuzuriha/>

- ③ Eメール：yuzurihacom@a.zaq.jp

(2) 書記委員

役員会の議事録を速やかに作成する。併せてブログ作成。ブログは紙ベースと違い情報量の制限もなく、多量でスピーディに配信できる。アップデートして情報のオープン化と、資料保存の確保を図る。

(3) 経理業務

出納・予算収支管理の他、補助金管理を行う為、通帳管理を行なう。

(4) 施設業務

コミュニティルーム等の運営業務を行ない、使用日の受付、使用料の徴収、鍵の管理等を行なう。

活動支援局活動事業

(1) 地域交流事業

- ① 自治会や老人会、福祉委員など活発な事業を行い、文化の高いまちづくりを形成する。
- ② 「白瀬川両岸集合住宅協議会」は、ゆずり葉コミュニティ役員会終了後に代議員が集まり、コミュニケーション会議を行う。

(2) 子どもの健全育成・三世代交流事業

子ども・親・高齢者の異世代ふれあいを通して連帯意識を醸成する。野外で三世代のふれあい事業を実施し、子どもたちの健全育成を図る。

(3) 防災・防犯推進事業

災害の未然防止に、防災訓練の参加や防災意識の高揚を図る。(ワークショップ・出前講座) 児童の登校時、下校時に時間を合わせての散歩や植木の手入れなど、児童の見守りを行う。高齢者を狙った詐欺防止等、防犯関連の注意を喚起する。

(4) 環境美化推進事業

「まちをきれいに」を合言葉に、里山や公園・白瀬川他のクリーンハイキング、清掃活動を行う。町や公園に花を植え、美化に努める。

(5) 健康福祉ネットワーク事業

高齢者福祉、子育て支援、特に一人暮らしの高齢者の日常的な見守り活動や、災害時の救助活動「災害時要援護者支援制度」の取り組みと福祉ネットワーク事業を展開し、各地域のサロンや自治会イベント活動等を積極的に支援し、誰もが参加できる「居場所づくり」を促進する。

(6) エイジフレンドリーシティに向けて地域活動活性化への取り組み

超高齢化が進み、急坂の多いベッタタウンである当地は、高齢者にやさしいまちづくりを目指して、地域の公園、花壇、裏山についてロードマップの利活用を図り、あらゆる世代が「お互いさまがあふれるまちづくり」への実践活動を行う。

(7) 安全・安心のまちづくり

子どもから、高齢者までが、安全・安心して暮らせるまちづくりを目指す。

(8) オンライン事業化

役員会及び5役会をz o o m等の機能を取り入れ、会議等の効率化を図る。